

令和4年度「総括評価表」(徳島県立城南高等学校)

評価・評定の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善の方策 | |
|--------------|--|---|--|--|---|--|
| 重点目標 | 重点課題 | 具体的な対策とその評価指標 (⇒印) | 活動の実施状況と評価指標の達成度 (⇒印) | 総合評価(所見) | | 学校関係者の意見 |
| 学力向上・進路実現の充実 | 教員の教科指導力を高め、ICT等を活用し、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。 3年生の進路実現のため、生徒の実態に合わせた科目選択が出来る補習授業を実施し、生徒の成績向上に努める。 | 各学期に設ける授業参観週間での教員相互間による授業見学や、年間2回の生徒への授業アンケートを実施し、教科指導力の向上を図る。 ⇒生徒による授業満足度(80)%以上 | ①教師それぞれが、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業に努め、授業評価を1学期末・2学期末の年2回実施した。1人1台タブレットの活用やICTを活用した授業改善を行った。 ⇒生徒による授業評価での授業満足度は 1年生 93%(昨年度92%) 2年生 91%(昨年度91%) 3年生 92%(昨年度90%)であった。 | A ----- 授業満足度は目標を上回っていた。生徒の学力を伸ばしていくことで、キャリア意識の育成に向けてさらに授業改善に努めていきたい。 | ・今後も生徒が学びがいを感じながら切磋琢磨し、学力を向上させていけるような授業を展開してほしい。 | 本校の校風である「自主・自立」の精神のもと、生徒が主体的に学ぶ力を育てていきたい。 新型コロナウイルス感染症においてもICTを活用し、学びをとめないことが望まれる。 時間を工夫することで補習する時間を確保し、生徒のニーズに合った実施を検討しなければならない。 |
| | 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能を習得し、新たに学校における基盤的ツールとなるICTを最大限活用しながら、問題解決や探究の過程において必要な情報が活用できる人材の育成を図る。 | ①生徒は、情報科や総合的な探究の時間の授業を通じて理解する。 ⇒年(1)回以上、コンピュータを用いて作成したレポートの提出、もしくはプレゼンテーションの実施による成績の評価 ②教員は、ICT活用教材の提示などによる情報交換を通じ、多様な生徒たちを誰1人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。 | ①少なくとも1回はレポート作成またはプレゼンテーションの作成ができ、多い生徒では5回以上にもなっている。情報などの授業においてレポートの提出、総合的な探究の時間の授業においてプレゼンテーションソフトを利用して発表を行った。生徒間における評価も、Microsoft formsを用いて行うなど、1人1台タブレットを活用した授業の工夫を行うことができた。 ②昨年度と同様、多くの教員が電子黒板やタブレットを利用した授業を展開している。また、Zoomを活用した集会や講演会などを通じ、これからのICT活用能力を養うことができた。 | A ----- 全体的には活用能力等養うことができたが、一部にはICTの活用を苦手に思う生徒・教員もいるため、授業や研修を通して苦手意識の解消を図る必要がある。 | ・ICTを活用した授業を今後も展開してほしい。 | 1人1台のタブレットが配置されて、より授業においてICT活用が重要になってくる。 取扱方法など生徒に対する講習会や教員に対する研修会を複数回実施することにより、積極的にICTを活用できる人材の育成に努める。 |
| | 読書活動の推進をし、本を読む習慣を確立させ、基本的な読解力・考える力を身につけさせる。 | 『図書館情報』『図書館報』の発行や図書委員による広報活動を通じて、読書を奨励する。 ⇒図書館の年間総貸し出し冊数、(2500)冊以上 | 司書による適切な選書、『図書館情報』の発行等を昨年度に引き続き行っている。HR担任、教科担任によりHR活動や授業での図書館利用が積極的に行われた。図書委員も貸出業務や『図書館報』の作成等を確実に行った。 ⇒4～1月総貸出冊数1,834冊であった。 本年度より、HR文庫年間貸し出しを利用者が少ないため停止したので、その分の貸出数(880冊)を差し引くと、目標を達成している。 | A ----- 図書の借り出し、調べ物、自習等生徒は図書館をよく利用している。貸出数は昨年度の同時期(1,769冊)から微増している。 | ・活字離れが懸念されている中、読書推進活動を更に進めていってほしい。 | 来年度も『図書館情報』等の広報を充実し、貸し出しを増やしたい。 |
| | 家庭学習の重要性を理解させ、自ら学ぶ姿勢を育成し、学習習慣の確立に努める。 | ①「フォーサイト手帳」や面談等を利用して生徒に家庭学習の重要性を認識させる。家庭学習時間調査を定期的実施し、生徒の学習の状況を教員間で把握する。各教科で週末課題や宿題を課すなどして学習習慣の定着を図る。 ⇒ a 家庭学習時間調査を年(8)回実施する。 b 一週間の家庭学習時間の学年平均目標は、 1年生(16)時間 2年生(16)時間 3年生(21)時間 ②3年生対象に自習室の開放を土曜日に実施する。 ⇒年間(15)回以上 | ①「フォーサイト手帳」を有効利用することで、生徒が自身の時間管理をすることができた。また、担任は生徒の学習状況を把握し、その結果をもとに各教科で学習習慣の定着を図る取組を行った。 ⇒連続する7日間(1週間)の家庭学習時間調査を年間8回実施した。1週間当たりの家庭学習時間の平均は、 1年生 16.4時間/週 2年生 15.9時間/週 3年生 24.5時間/週 であった。(3年生は年間3回) ②⇒年間19回実施した。 | B ----- 2年生以外は家庭学習時間が目標を上回っている。家庭で学習することの必要性を繰り返し指導し、部活動との両立をしっかりとやり遂げさせたい。 | ・家庭学習の必要性と、勉強と部活動との両立をやり遂げるための有効な時間の使い方ができるような指導を、学校全体でしっかりと取り組んでほしい。 | 進路目標の実現には高い学力が必要であるということを生徒たちにしっかりと理解させ、毎日の宿題や小テストの実施などの取組を通して、日頃から家庭学習をする習慣を身につけさせたい。 家庭学習を習慣化させるためには規則正しい生活リズムの形成が必要である。本人に自覚させることは当然必要であるが、保護者にも協力を要請していきたい。 |
| | 生徒の進路希望の把握に努める。 | 年度当初の面談や夏季休業中の三者面談の他に常日頃から計画的に面談を行い、生徒の進路希望を把握するとともに、その実現に向けての指導を的確に行う。 ⇒ a 担任等による個人面談を年間(4)回以上実施する。 b 面談の満足度(80)%以上 c 3年生の進路検討会を(4)回以上実 | ⇒ a 個人面談を全学年で1学期に1回設定、2学年は教科面談を2学期に1回、3学期に1回設定した。面談週間以外にも、生徒との面談を積極的に行った。 b 学校評価アンケートで、面談が進路選択に役立っていると答えた生徒は、 1年生 80% 2年生 78% | B ----- 進路希望を達成できるよう、面談等を通して生徒や保護者の | ・今後も生徒や保護者が知りたい進路情報を適切な時期に適宜与えてほしい。 | 進路講演会やオープンキャンパス等への参加など、将来の自分の進路について考えさせる機会をさらに増やしていきたい。 広い視野で自己の将来を考えさせるために、広範囲に渡って情報提供し、選択の幅を広げさ |

| | | | | | |
|------------|------------------------------|---|---|---|--|
| | 施する | <p>3年生 92%</p> <p>保護者は、1年生 80%</p> <p>2年生 85%</p> <p>3年生 92% であった。</p> <p>c 進路検討会を3年生は4回実施した。</p> | <p>進路希望の把握に努めている。</p> <p>進路情報誌の精選を行い、年度当初に計画して、適切な時期に配布するよう努めた。</p> <p>3年生の進路検討会の4回実施が定着した。</p> | <p>せることも必要である。</p> | |
| | 充実した進路情報の提供を図る。 | <p>①オープンキャンパスや各種説明会への案内、その他生徒の進路に必要な情報を適切に生徒に提供する。</p> <p>②外部講師を招聘し、各学年（1）回以上進路説明会を実施する。</p> <p>③校内進路情報誌『進路』等の活用を図る。</p> <p>⇒学校が提供する情報が役立っていると感じる生徒（80）%以上。</p> | <p>⇒学校評価アンケートで、学校が提供する情報が役立っていると感じている生徒が84%、保護者が83%であった。</p> | <p>・進路指導の充実を図り、難関大学への進学を目指す学力を持つ生徒を育ててほしい。</p> | |
| | 就職指導の充実に努める。 | <p>出来るだけ早い時期に生徒の希望を把握し、求人開拓を図るとともに、就職・公務員模試や補習、面接指導を実施する。</p> <p>⇒模試は1・2年生希望者（2）回以上、3年生希望者（3）回以上実施する。</p> | <p>民間企業への就職希望者が3名いたが、うち2名が就職し、1名が進学に切り替え、それぞれ希望を実現した。また、公務員に2名が希望し、2名とも合格した。</p> <p>⇒1・2年生の模試は2回、3年生の模試は3回実施できた。</p> | <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>-----</p> <p>今後も生徒全員がそれぞれ希望する企業に就職できるように指導していく。</p> | <p>・生徒の進路希望の実現に向けて引き続き指導をお願いしたい。</p> |
| 日々の生徒指導の充実 | 遅刻の防止に努め、保護者と連携して生活改善を図る。 | <p>遅刻防止については、担任による常時指導（家庭への連絡を含む）とともに、遅刻常習生徒について10回の時点で生徒指導課による生活習慣指導を行い、15回で保護者を召喚し、生徒本人を交えて、担任や学年主任、生徒指導課長で生活改善について話し合う。</p> <p>⇒遅刻数800回以内（前年度940）</p> <p>遅刻ゼロの日年間（10）日以上</p> | <p>本年度は、学校全体の遅刻ゼロの日は10日で本年度目標をクリアした。本年度の遅刻の総数は、1040件。これは昨年度よりも100件増加した。昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症対応で体調不良者も多く遅刻が増加した。遅刻10回で生徒指導課で面談については、2名行った。本年度1.07%で目標の1%は未達成となった。今後とも遅刻を減らすよう指導していきたい。</p> <p>⇒全校遅刻率は1.22%、遅刻ゼロの日は全校で10日であった。</p> <p>学年ごとでは、</p> <p>1年生遅刻率1.07%・遅刻ゼロ46日</p> <p>2年生遅刻率1.08%・遅刻ゼロ49日</p> <p>3年生遅刻率1.62%・遅刻ゼロ30日であった。</p> | <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>-----</p> <p>遅刻0の日は10日となり達成できた。遅刻者数については、3年生が特に多かった。ただコロナ対応や配慮を要する生徒が複数いるため体調不良者が多くなっている。交通事故は13件の事故が起きている。うち対自動車との事故が10件・対自転車3件となっている。</p> | <p>・交通事故の件数を減らすための指導や取組が望まれる。</p> <p>・事故を起こさないためにも生徒・家庭へ向けて、常に時間にゆとりを持った行動をするよう促してほしい。</p> |
| | 頭髪・服装に関する規程の遵守徹底と違反者の改善に努める。 | <p>頭髪・服装については、担任による常時指導（家庭への連絡を含む）とともに、全校集会もしくは学年集会で全体指導を行う。再度、指導を要する生徒に対しては、再指導を行う。特に改善されない指導を要する生徒に対しては、保護者と連携して、帰宅させて改善させる指導を行う。</p> <p>⇒改善を要すると指導を受けた生徒の改善率（100）%</p> | <p>違反者も以前に比べて減少し、校則を守る意識が向上した。靴下のツーポイントの規定としたため違反者が少なくなった。</p> <p>⇒指導を受けた生徒の改善率は、100%であった。</p> | | |
| | 交通事故防止に努める。 | <p>通学時の交通ルールの遵守を徹底させ、交通マナーを身につけさせる指導を行う。</p> <p>⇒立哨指導年間（100）日以上</p> <p>事故件数（20）件以内</p> | <p>副担任を中心に毎日学校近隣の事故多発場所二か所で指導を行った。本年度の事故数は13件で昨年の総数より14件減少した。目標を大幅に上回った。しかし自転車の苦情は多く来ている。</p> <p>⇒立哨指導を80日（2月14日現在）実施した。</p> <p>コロナ感染症対策で校務が増加したため100日以上にはならなかった。</p> | | <p>・自転車の運転マナーについて、繰り返し指導をしてほしい。</p> <p>・R5年4月から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務になることに合わせて、学校でもできるだけ着用するよう指導してほしい。</p> |
| | いじめ防止に努める。 | <p>よりよい人間関係を築かせ、いじめのない学校づくりをする。</p> <p>⇒学校生活に関するアンケートを年（2）回以上実施</p> | <p>5月と12月にアンケートを実施し、いじめの防止に努めた。本年度はいじめとなる事案は残念ながら1件あったが、聞き取りなどを行い、問題になることは無かった。絶対にいじめは許さないという態度で集会等で呼びかけをするとともに、アンケートや面接週間等を利用して、早期発見に努めた。</p> <p>⇒アンケートを年2回実施した。</p> | | <p>中学校で使用していたヘルメットを継続使用してほしい。</p> |

| | | | | | | |
|---------------------------------|--|---|---|---|---|--|
| <p>特別活動・人権・主権者教育の充実</p> | <p>生徒が充実感・達成感を感じられる学校行事と部活動を展開する。</p> | <p>①学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度（80）%以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動評価の満足度（80）%以上</p> | <p>①生徒会との意見交換を活発に行い、コロナ感染症対策を講じながら充実したものとなるように努めた。また、できるだけ従来の形に戻しながら、コロナ感染症対策で工夫したものを加えて新しい形を模索することもできた。そのため、満足度も従来の数値に戻り、概ね好評だった。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの学校行事満足度は93%であった。 ②専門性、本人の希望に応じて顧問を配置し、日々の指導も生徒との会話を重視して行っている。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの部活動満足度は94%であった。</p> | <p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>部活動、学校行事共に、コロナ以前の数値に戻った。特別活動が正常に機能しつづけると考えられる。</p> | <p>・部活動の取組でも、スポーツや文化活動での活躍を、新聞などでよく見る。勉強にも部活動にも意欲的に取り組む「文武両道」の精神を今後とも続けてほしい。</p> | <p>今後も生徒会との意見交換を行い、ポストコロナ時代の状況を見定め、未来の形を模索しながら、行事のあり方や実施方法を検討していく。 また、顧問同士の対話や部員と教員との対話を多くとることで、部活動内の状況把握に努め、生徒理解を深める。指導者や顧問の適材適所を鑑みる。</p> |
| | <p>人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。</p> | <p>①人権学習ホームルーム活動の活性化を図るため人権委員会の活動の充実を図る。 ⇒人権委員会の実施 年間（5）回以上 ②人権啓発行事（人権展・人権講演会等）を実施し、人権啓発新聞「TOMORROW」を発行する。 ⇒「TOMORROW」の発行を年間（3）回以上 ③ヒューマンライツ部を中心に支援学校との交流を進める。 ⇒交流会を年（3）回以上実施</p> | <p>①⇒人権ホームルーム活動実施記録を人権委員に毎回提出してもらい、成果や課題の共有を図った。 人権委員会は、2月22日現在で10回実施している。 ②⇒今年度は、性的マイノリティーの人権を主題とした講演会を対面で11月に実施した。また、ジェンダーに関するレポートを人権委員とヒューマンライツ部員が作成し、展示を行った。 人権啓発新聞「TOMORROW」の発行（3回） 賀川豊彦展開催（2/8～21） ③⇒聴覚支援学校との交流会（1学期実施、2学期中止、3学期実施予定） 文化祭での交流会は中止となったが、本校人権委員会・ヒューマンライツ部で啓発資料を作成し校内で展示した。 また、各学期末に交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため2学期は中止、3学期は学期末の実施を予定している。</p> | <p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>人員会・ヒューマンライツ部の一層の活性化と活動の成果を他の生徒に広げられるような工夫を考えていきたい。 聴覚支援学校との交流会は、生徒の間にも定着しており、毎回募集人数を上回る希望者を集めている。今年度開催されたインターハイ総合開会式では、13名の生徒が手話通訳として自主的に参加した。</p> | <p>・積極的な生徒の活動を全体に広げていってほしい。</p> | <p>講演会や研修、映画会、交流会等については、新型コロナウイルス感染症の感染状況の推移を見ながら、段階的に本来の形式に戻していくとともに、より効果的な計画を進めていく必要がある。</p> |
| <p>民主社会を形成する主権者としての意識向上を図る。</p> | <p>①主権者教育に対する教職員の共通理解と指導力の向上を図る。 ⇒教職員研修年（1）回実施 ②生徒の主権者意識を高めるための出前講座を実施する。 ⇒出前講座を年（1）回実施 ③主権者教育に関するHR活動を年（1）回実施</p> | <p>①③今年度は、主権者教育 HR 活動を前に教職員研修を実施した。 ②四国大学の本田利広教授を講師に招き、出前講座を2年生対象に実施した。</p> | <p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>出前講座の事後アンケートの結果は良好であり、その意識を実践に結びつけることが重要である。</p> | <p>・生徒の主権者意識を育む機会を今後も設けてほしい。</p> | <p>令和4年4月から成人年齢が18歳に引き下げられることから、投票行動のみならず民主社会を形成する一員としての自覚をいかに促していくかが課題であり、生徒会をはじめとする特別活動との連携を考えていきたい。</p> | |
| <p>課題研究（SSH）や探究活動、広報の充実</p> | <p>スーパーサイエンスハイスクールの活動をすべての教育活動にも生かし、成果を生徒の進路実現につなげるとともに、県下への普及を図る。</p> | <p>①スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組により、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、発展的な応用力も身に付けさせる。 ⇒SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒（70）%以上 ②科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞等での入選数（7）以上 ⇒全国大会への出品（2）以上 ③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施（2）回以上 ④普通科「探究」の充実を図る。 ⇒成果発表会の実施（1）回以上 ⇒自己の在り方生き方を考えながら、主体的に問題を発見し解決する力を養う「探究」活動への生徒満足度（70）%以上</p> | <p>①SSHの課題研究や数理科の授業など、様々な取組を通し、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的・発展的な力が身につくよう努めた。 ⇒科学的な見方・科学的に問題解決する力が身についたとする生徒 71% プレゼンテーション能力が向上したとする生徒 89% レポート作成能力が高まったとする生徒 87% 研究方法や技能の習得ができたとする生徒 84%</p> <p>②理科担当教員による放課後の指導等により、科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図った。 ⇒日本学生科学賞徳島県審査 優秀賞1、入賞2 ⇒第78回科学経験発表会 最優秀1、特選3、入選3 ⇒全国高等学校総合文化祭自然科学部門 文化連盟賞 ⇒中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会 ⇒スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会発表 ⇒サイエンスキャッスル生徒発表 ⇒日本化学会中国四国支部化学教育研究大会生徒発表 ⇒高校生国際シンポジウム生徒発表 ⇒日本天文学ジュニアセッション生徒発表</p> <p>③⇒中学生対象理科実験教室を1回実施した。 ⇒徳島大学と共同で、徳島県SSH高等学校課題研究および科学部研究研修会を2回開催し、延べ8校240名の生徒に参加してもらうことができた。</p> <p>④今年度から、1年生で「理数探究基礎」を履修し、それをもとに、2年生での「総合的な探究の時間」で1</p> | <p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>SSHの活動に対してはどの項目でも評価が高く、3年間の活動が充実していたことがうかがえる。コロナ禍で入学から校内外のいくつかの発表会や科学イベントが中止となったが、本校企画のものについてはオンラインを活用し、実施に努めた。課題研究では高い評価をいただくことができた。全国大会への出品は7点と近年では最大数いる。課題研究指導のノウハウや成果物については研究成果発表会等で紹介するとともにホームページで案内している。今後も生徒の主体性を育成し、能力の向上や各種コンテストでの成果獲得を図っていきたい。</p> | <p>・理数科学的な視点から社会問題を解決していくという力を今後益々つけていってほしい。そこから将来において起業するような若者を世間も望んでいる。</p> <p>・R5年度は、国際数学オリンピックが日本で開催される。数学オリンピックなど各種コンテストにも積極的に挑戦してほしい。</p> | <p>文科省のSSH第4期の指定を受けて、課題研究の指導や高大連携についてさらに発展させるとともに、ルーブリックやアクティブラーニング等の情報収集と研究、そして実践を行った。 ルーブリックの研究実践は、生徒の主体的な課題研究の内容向上や教員の指導力強化につながっている。 今後、SSHの取組等の成果を評価するシステム構築やSSHの取組の学校全体への波及、また「チャレンジ授業（研究授業）」の充実も必要である。</p> |

| | | | | | | |
|------------|--|--|--|---|--|--|
| | | | 年間かけた探究活動を行うことになった。 今年度は、外部との連携やクラス間の交流、2年生探究活動最終発表会での他学年間交流というように、活動と活動の幅が広がってきた。 ⇒成果発表会を2回実施した。 ⇒学校評価アンケートでは、「総合的な探究の時間」における生徒満足度は、86.3%であった。 | A 生徒は、探究活動に前向きに取り組んでいる。 | | |
| | 家庭や地域社会と連携及び協働し、地域や保護者の信頼に応える学校づくりの推進に努める。 | 積極的な情報発信に努める ⇒ホームページの更新回数、 月(10)回以上 ホームページへのアクセス数、 年間(450,000)件以上 | 昨年度から引き続いてコロナ感染症対策の情報やコロナ禍での学校の様子、さらには徐々に行動制限が解除されたこともあり多くの記事を更新することができた。ホームページの更新回数は月平均15回である。 ホームページへのアクセス件数は1年間で約100万件以上となり、昨年度と同様程度の閲覧数となった。これもコロナ下の影響が反映されているためであると考えられる。 | A アクセス数を増やすため全ての分野での更新と魅力あるページの作成に努力したい。 | ・今後も、本校の生徒や保護者、受検を考えている中学生の生徒や保護者にとって、知りたい情報を分かりやすく掲載して欲しい。 | より多くの方に見ていただけるようなホームページを作成・更新するように努める。 中学生や保護者のアクセスが多いことから、ニーズに応じた更新を行っていく必要がある。また、GIGA スクール構想における本校の取り組みも定期的に掲載していきたい。 |
| 安心・安全な環境整備 | 油断無く感染症対策を充実させ、健康を守る環境を構築する。 | ①感染状況の把握と感染拡大防止対策の徹底をはかるとともに、「Zoom」等による生徒への集団指導を年間6回行う。 ②校内モニターによる感染症対策に関する情報の提供を、年間150日行う。 ③登校日における換気や手指消毒の配置状況等の感染対策についての校内巡視を週1回行う。 | ①校内外の感染状況の把握を行うとともに、「Zoom」による集団指導を年間6回、クラスにおける感染対策に関する啓発動画の視聴を2回実施した。 ②校内モニターによる感染症対策に関する情報・啓発指導を、年間180日以上行った。 ③登校日における換気や手指消毒の配置状況等の感染対策についての校内巡視を週1回行った。 | A 感染症対策が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波を経ながらも、学級閉鎖等に至ることがなかった。他の感染症の発生も少なかった。 | ・学校での感染拡大はどのようであったのか、可能な範囲で情報提供があればありがたい。 | 今後は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱いの変更が予定されていることから、変化を踏まえた健康管理・保健指導を行いたい。 様々な学校教育活動が安全かつ充実するように、必要な環境整備に努めたい。 |
| | 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。 各自が責任を持ってゴミの分別や環境美化に努め、持続可能な学校作りに貢献することができる。 | ①防災訓練を年(2)回実施する。 ②防災について関心の高い生徒の割合を(80)%以上にする。 自分の分担場所の清掃を責任をもってやっている生徒の割合を(93)%以上にする。 | ①7月に地震対応の避難訓練を実施し、全校生徒が校舎3・4階への垂直避難を迅速に行うことができた。10月には災害避難する場合の避難経路確認として徳島霊園とニュータウン城南台までの行動を有志約100人が確認することができた。 ②9月に環境防災ホームルーム活動を実施し、1年は「防災意識を高めよう」、2年は「もし今大地震がおこったら・・・」というテーマで環境防災委員によるプレゼンテーションを行った。その後学校周辺ハザードマップや避難所運営についての学習を行った。1年85%・2年80%・3年87%の生徒が防災について関心があり、指標を達成することができた。 責任を持って清掃をしている生徒は96.3%となっており、ゴミ箱を定期的に洗浄するなど校舎内外が美しく保たれるようになった。 | A コロナ禍の中ではあるが、できる防災教育を考え実践することができた。今年度からとくしまGXスクールとなり、生徒ホームの環境防災掲示板も充実させることができた。 | ・生徒が「自分ごと」として防災に取り組む活動を今後も続けてほしい。 ・南海トラフ地震を想定し、本校が避難所になる計画がどこまで機能するか、準備を重ねて欲しい。 | 防災教育については、高い関心があることがわかった。防災訓練がマンネリ化しないよう内容の充実を考えていきたい。また、環境防災ホームルーム活動は本年3回目となり、毎年9月頃に実施することが定着してきた。環境防災委員の活動として内容を充実・検討していきたい。 |
| | 消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 持続可能な社会の実現に向けた消費生活を実践できる能力を育成する。 | ①「契約トラブルや消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合を(70)%以上にする。 ②「持続可能な社会について考え、実際に行動することができた」と回答した生徒の割合を(75)%以上にする。 | ①消費者教育は主に1年次の家庭基礎(1月)で実施したため、12月に行われた調査では、1年63%・2年69%・3年73%と1年生で低いものとなった。 ②探究の授業や家庭基礎、環境美化・エシカルクラブの活動などを通して持続可能な社会について考えたが、1年66%・2年68%・3年68%と低かった。 | B 消費者教育や持続可能な社会について、昨年より数値が低くなった。今年度より18歳成年となったため、さらに啓発・広報・実践を促していくことが大切である。 | ・今年度の「出前授業」のように、地域の企業が生徒の夢の実現をサポートできることあるので、こういう取組を続けてほしい。 | 18歳成年となったため、消費者教育は重要となってくる。1年次で学習し、2年次の2月に消費者教育の講演会を聞いている。学校生活のあらゆる場面で伝えていく必要がある。持続可能な社会については、ゴミの分別を徹底させ、自分の行動に自信を持てる生徒を育てたい。 |
| | 松柏会の活動を充実させ、保護者や地域の方々々と協力しながら生徒の成長を促す。 | 進路説明会、大学視察、進路講演会・座談会の実施(年1回) 体育祭バザーや祖父母の会を実施して、交流を深める。(年1回) | 進路説明会については3年生は松柏会総会時に実施、1・2年生についてはオンラインにて実施した。進路講演会・座談会については、講師に近畿大学の屋木清孝氏をお迎えし、「大学入試の現状と受験生を持つ保護者の心構え ～親のこころ子のこころ～」と題して講演をして頂いた。また、卒業生とその保護者6名を講師に迎えての座談会では、たくさん質問に対して具体的な回答をして頂き、生の声を聞くことができた。大学視察については台風接近のため中止となった。体育祭バザーではジュースとアイスクリームの販売をして頂き、祖父母の会 | B 台風接近により中止となった大学視察以外の行事については、予定通り実施することができた。 | ・大学視察が次年度実施できることを期待している。 | 祖父母の会は家庭クラブと連携し、今年度のような在校生全ての祖父母にプレゼントと気持ちを伝えられる形の方が、これからは望ましいと感じた。進路説明会については、オンラインと対面と、どちらの方が効果が上がるか、また必要な情報が適切に保護者に共有されるか、検証していく必要があると |

| | | | | | |
|---------------------------|--|---|---|---|---|
| | | ではコースター作りを通して、交流を深めることができた。 | | | 感じた。 |
| 働き方改革を推進することで、教育活動の充実を図る。 | 1年単位の変形労働時間制の導入と学校閉庁日（2日以上）の設定 | 希望者に対し変形労働時間制の導入した。また、学校閉庁日（8/12, 13の2日間）を設定した。 | A | <p>-----</p> <p>昨年度からの取組を継続することで働き方改革への理解を進めることにつながった一方、校務分掌等の適正化や学校行事の見直しなどが急務である。</p> | <p>・本年度の目標基準は達成している。</p> <p>G I G Aスクールの推進に対し、より一層の取り組みが求められている。今後も働き方改革を通し、業務の適正化や行事の見直しはもちろんのこと、教員一人一人がやりがいや学びがいを持って職務に取り組むことができる学校の在り方に努める。</p> |
| コミュニティ・スクールの活性化を図る。 | 学校運営協議会委員の持つネットワークを活用し地域の方と連携しながら学校運営・教育活動を展開するため、年（2）回学校運営協議会を開催し、学校運営や必要な支援に関する議論を深める。 | 学校運営協議会を年3回（第3回は3月16日）実施した。 | B | <p>-----</p> <p>学校運営協議会では、交通安全や学校行事、保健衛生等、学校運営の改善に結びつく議論が行われた。</p> | <p>・学校運営協議会に参加してみても分かることがある。学校運営に関して当事者意識を持つことができる。本協議会が更に活性化することを期待する。</p> <p>学校運営協議会で深められた議論や、委員からの意見を受け、来年度の学校運営・教育活動の改善に取り組む。 また、コロナ禍で限定開催となったオープンスクールなども、地域の方と連携を深めるために検討していく。</p> |